

環境制御技術で施設トマトの単収増加を実証

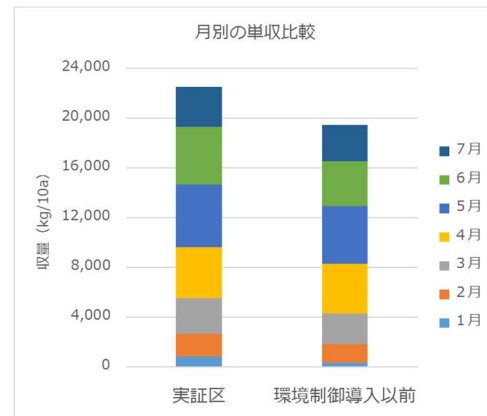
～施設野菜生産の次世代モデルを目指した実証調査の報告～

海匠農業事務所改良普及課 令和3年10月14日発

旭市飯岡地区の沿岸部には大玉トマトの産地があり、温暖な気候を生かした越冬栽培が行われています。しかし、近年、燃料費の高騰や他産地の生産量増加による単価下落の影響を受けており、厳しい経営状況が続いています。

そこで農業事務所では、全国農業システム化研究会（[一社]全国農業改良普及支援協会と民間企業が参画）と共同で、環境制御技術による収量向上と経営改善の実証調査を昨年度から始めました。炭酸ガス施用装置、統合環境制御装置を試験導入し、令和2年度作では過去3年間の平均反収と比較して約15%の増収を達成しました。

実証調査は今年度作も行い、最終目標の単収20%向上を目指します。また、経営改善効果についても詳細な検証を行い、産地への技術普及を目指します。



試験導入機器（上：炭酸ガス発生器、下：統合環境制御装置）と試験結果